

乳幼児期の臨床的問題とアタッチメント

大塚 己恭 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科

黒木 咲 お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科

青木 紀久代 お茶の水女子大学

要約

本論では、乳幼児精神保健に焦点をあてた学術誌におけるアタッチメント研究の動向を概観し、臨床的問題の内容から整理した。整理した内容はおおよそ中心となる時期が異なり、4つにわかれた。まず、1980年代は不安定なアタッチメントと乳幼児の精神保健に影響を与える子どもの器質的要因、親の要因との関連を中心に研究が行われていた。次に1990年代前半は世代間伝達の研究が盛んになっていた。その後、1990年代後半から2000年代前半はD型アタッチメントの発見により、反応性アタッチメント障害へ焦点があたっていた。2000年代後半からはアタッチメント理論に基づく養育者と子どものアタッチメント形成を促進する介入研究が徐々に増え、母子以外の社会的養護における研究が増加していた。これらを踏まえ、今後の課題を検討した。

キー・ワード：乳幼児、アタッチメント、反応性アタッチメント障害、母子、里親、施設

I はじめに

アタッチメント (attachment) とは乳幼児がネガティブな感情や危機的状況から身を守るために、特定の主たる養育者に接近し、安全感を維持する現象をさす。乳幼児期だけでなく、生涯にわたって人間のさまざまな発達の側面に影響を与え、重要な役割を果たすものである。Bowlby (1969, 1973, 1980) がアタッチメント理論を提唱して以来、さまざまな分野でアタッチメント研究が行われてきた。

Bowlby (1951) は非行少年や施設児の調査から、早期の母子分離が乳幼児の発達に重大な影響をもたらすと考え、母子間の絆 (アタッチメント) の性質を理解するために包括的なアタッチメント理論を構築するにいたった (Bowlby, 1969, 1973,

1980)。Bowlby が精神分析に生物学的な視点を加え、観察可能な指標を提案した意義は大きい。しかしながら、アタッチメント理論が提唱された当時、臨床領域、特に精神分析領域ではほとんど研究が行われてこなかった。この理由として、青木 (2008) はアタッチメント理論が精神分析理論の発生論的観点、構造論的観点、適応論的観点を取り入れていたが、1950～1960年代に重要視された経済論的観点や力動的観点については一部またはすべてを取り入れていなかったこと、調査研究などを次々と取り入れ続ける Bowlby のスタイルが精神分析領域であまり歓迎されてこなかったことを指摘している。そのため、アタッチメント研究は、Ainsworth et al. (1978) が提案した「ストレンジ・シチュエーション法 (Strange

Situation Procedure, 以下 SSP)」といった実証的パラダイムを中心に発達心理学領域において1970年代に発展した(近藤, 1993)。また, Main, Kaplan & Cassidy (1985) の成人アタッチメントインタビュー (Adult Attachment Interview, 以下 AAI) の開発により, 乳幼児のアタッチメントパターンとの関連や, アタッチメントの世代間伝達の研究が発展した(遠藤, 1993; 数井他, 2000)。さらに, SSP を用いた研究が蓄積されるにつれ, 1980年代になると, 従来のパターンに当てはまらない行動をする乳幼児の存在が確認された。これらは, 「分類不能」として分析対象から除外されたり, 強制的に分類に振り分けられてきた経緯があったが, Main & Solomon (1986) によって, 無秩序・無方向型 (disorganized /disoriented, 以下 D 型) に分類された。D 型のアタッチメントパターンは貧困や親の精神疾患, 虐待など, 不適切な養育環境で育てられた乳児において見られる傾向があるとわかっている。1980年後半からアタッチメント理論が再び臨床領域で注目され始め, D 型アタッチメントの実証研究や介入研究が行われてきた(庄司他, 2008)。さらに臨床領域では, アタッチメントの問題が将来の発達のリスクを予測するものではなく, すでに精神障害であると捉え, アタッチメント障害を診断し, 治療・介入を行うとする臨床的な方向性が生まれた。児童虐待が社会問題として注目を集める現在, このような観点から臨床領域でもアタッチメント研究が発展している(青木, 2008)。

II 目的

先述のようにアタッチメント研究は当初, 発達心理学領域で発展し, もともと健康度の高い家庭のサンプルを中心に, 乳幼児のアタッチメントパターンが同定されていった。そして, 1980年代後半からアタッチメントパターンの臨床的問題として研究が増加したことがわかっている。しかしな

がら, 基礎的研究でアタッチメントの臨床的意義が再認識される前から, 乳幼児の臨床領域ではアタッチメントの概念が用いられてきたものと思われる。例えば, 社会的養護の文献におけるアタッチメントの問題などである(増沢・青木, 2012)。はたして臨床領域では, 「アタッチメント」はどのように研究されてきたのだろうか。

本研究では乳幼児の精神保健を中心テーマとする学術誌において, アタッチメント研究を概観し, 関連する臨床的問題や概念の用いられ方などを検討する。そして, 臨床的問題との接点を概観し, 今後の課題について検討することを目的とする。

III 方法

1. 分析資料

The World Association for Infant Mental Health (以下 WAIMH) ¹⁾ による Infant Mental Health Journal (以下 IMHJ) を検討した。

IMHJ は, WAIMH の目標を果たすべく, 1980年から刊行されている学会誌である。乳児の社会情緒的発達やあらゆるリスクに対する介入など, 臨床的問題を解決するための研究を集約している。また, 乳幼児とその家族の最適な発達のため, 学問を超えたアプローチに専念してきた。そのため心理学や小児科学, 精神医学など多様な学問分野からの研究, またソーシャルワーク, 特別教育, 早期介入など多様なテーマでの研究が掲載されている。本研究で乳幼児期の臨床的問題を概観するにあたり, 乳幼児期の幅広い臨床分野を網羅している IMHJ が適切であると考え, 検討することとした。

IMHJ の1980年第1巻1号から2015年第36巻3号までの全36巻173号分の学会誌を対象とした。1巻から第20巻までは1巻につき1号から4号, 第21巻以降は1巻につき6号が刊行されている(第21巻1-2号, 4-5号, 第22巻1-2号は合併号)。また, 今回は巻頭の導入の小記事や書評

は除き、論文 (Article, Research article, Clinical Study) として掲載されているものを検討対象とした。全 173 号のうち、論文として掲載されていたものは 1049 本あった。対象となった全 1049 本の論文の中からアタッチメントに関する研究を抽出するため、タイトルとアブストラクトを “attachment” というキーワードで検索した。最終的な対象論文は 223 本であった。

検討対象となった 223 本の論文の内容について、臨床心理を学ぶ大学院生 2 名と臨床心理士資格を持つ大学教員 1 名で協議し、論文中でどのようなアタッチメントに関する事柄が扱われているか、及びどのような臨床的課題が取り上げられているかについて分類した。表 1, 2 はそれらの詳細である。

2. 分類の方法

表 1 取り上げられたアタッチメントに関する事項の分類とその例

	分類	例
1	アタッチメント行動	泣きやアタッチメント行動を検討したもの。
2	内的作業モデル	親のアタッチメント表情など、内的ワーキングモデルに焦点をあてたもの。
3	形成要因の検討	アタッチメントを形成する要因を検討したもの。アタッチメント形成に関わる保護要因やリスク要因を検討したもの。
4	アタッチメントの予後	形成されたアタッチメントが発達にどのように関わるか検討したもの。
5	その他	新たな概念との関連など。

表 2 臨床的課題の分類とその例

	分類	例
1	子どものトラウマ体験	被虐待体験、災害による PTSD。
2	子どもの発達におけるリスク	発育不全、低体重出生児、育てにくい気質、脳障害。
3	親の問題	DV、アルコールや薬物中毒、低収入、精神疾患。
4	親以外の問題	マルトリートメント、集団生活、施設養育。
5	アタッチメント障害	RAD, D 型アタッチメント。

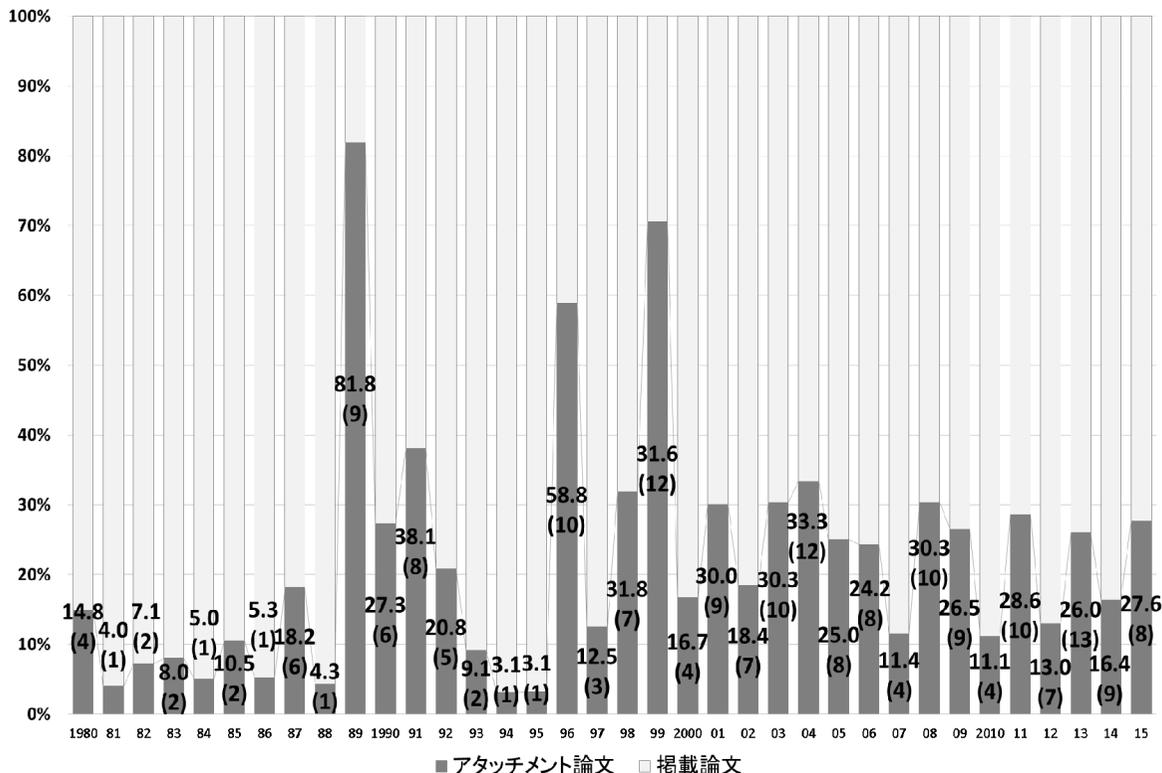


図1 各年のIMHJにおけるアタッチメントに関する論文の割合 ()内は本数

IV 結果と考察

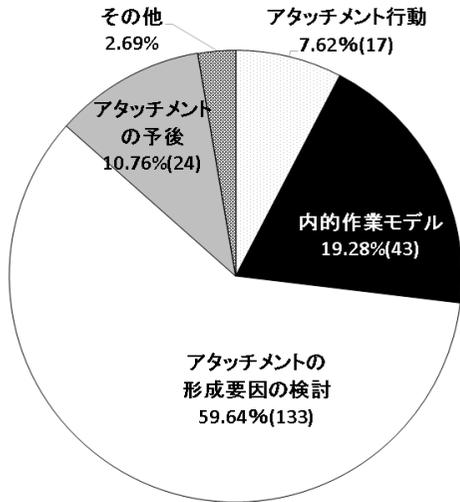
1. 分類

1) IMHJのアタッチメント研究の割合

IMHJにおけるアタッチメントに関する論文数の割合の推移を図1に示す。発行年より毎年アタッチメントに関する論文が掲載されている。1999年は無秩序/無方向型アタッチメントの特集が組まれており、アタッチメント研究の割合が多くなっている。しかし1989年と1996年はアタッチメントに関する特集は組まれていないにも関わらず、半分以上がアタッチメントに関わる論文であった。また1980年代より1990年代後半からアタッチメントに関する研究が増えている。発刊当初から現在まで、乳幼児の精神保健の分野において、アタッチメント研究は重要なテーマのひとつであることが分かる。詳しい内容は後述する。

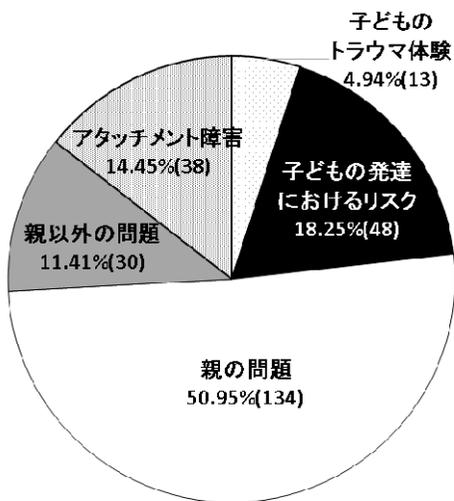
2) IMHJのアタッチメント研究の内容

分析対象の223本全ての論文の内容を、アタッチメントに関する事柄と臨床的課題について分類した結果を図2, 3に示した。臨床的問題については、1つの論文につき2つ以上の臨床的課題を扱っている際には、2つ以上の分類に当てはめられている。アタッチメントに関する事項では、「アタッチメントの形成要因の検討」が59.73%で一番多く、次いで「内的作業モデル:IWM」で19.46%であった。臨床的課題で一番多いものは「親の課題」で51.95%、次いで「子どもの発達におけるリスク」で18.25%であった。IMHJの全体的な傾向として、アタッチメント形成の要因を探ってきたこと、そして主に親と子を対象としてきたことが分かる。



()内は本数 N=223)

図2 アタッチメントに関する事柄の分類の内訳



()内は本数 N=263)

図3 臨床的問題の分類の内訳

また、223本の論文の内容を検討し、年代によっておおよそ以下の4つの特徴が見られた。(1) 1980年代の「子どものアタッチメントパターンへの着目」、(2) 1989年~1990年代前半の「世代間伝達のメカニズムの解明」、(3) 1990年代後半~2000年代前半の「反応性アタッチメント障害の枠組みの構築への着目」、(4) 2000年代後半から2015年の「社会的養護におけるアタッチメント研

究の増加」である。以下に各年代の詳しい内容について述べる。

2. アタッチメント研究での臨床的課題の変遷

1) 子どものアタッチメントパターンに着目した

時期：1980年~1988年

1980年から1988年のアタッチメントに関する研究は223本中20本(8.97%)だった。このうち、アタッチメント研究の内容の各分類が占める割合は「アタッチメントの形成要因の検討」が80.00%、「内的作業モデル：IWM」が10.00%、「アタッチメント行動」が5.00%、「アタッチメントの予後」が5.00%であった。他の時期と比べても、この時期は特にアタッチメントの形成要因に注目が集まっていたことが分かる。また、臨床的問題の各分類が占める割合は「親の問題」が50.00%、「子どもの発達におけるリスク」が35.00%、「親以外の問題」が10.00%、「子どものトラウマ体験」が5.00%であった。このことから、アタッチメントの形成要因の中でも、親や子どもの発達上のリスク要因に焦点が当てられている。

実際に1980年代は、SSPの開発でこの手続きによる多くの研究が発表されている。愛着形成における親子の問題に焦点を当て、子どものアタッチメントパターンにどのように関連しているのかを検討している研究が多かった。

1) -1 アタッチメントに影響する臨床的課題

例えば、Rieser-Danner, Roggman & Langlois (1987)らの研究では、アタッチメントに影響するのは二者関係のやり取りであることを強調し、乳児の特性も考慮に入れるべきだと主張した。親の知覚した乳児の気質やそれに伴う親の行動が影響している。また、母親だけでなく、父親の存在も乳幼児の精神保健を考えるには欠かせない(Lamb, 1980)。Drotar & Sturm (1987)は父親の薬物中毒や夫婦の不仲、葛藤的な関係が、母子のアタッチメントに強い影響力を持つという

臨床的問題を明らかにした。これは父親の臨床的アセスメントの重要性を示唆している。他にも若い母親と乳児とのアタッチメント関係は祖父母との同居や経済的支援の有無による影響が見られ、文脈的影響が示唆された (Frodi et al., 1985)。以上のように親子の臨床的問題が親子関係へのアタッチメントパターンの個人差に影響していることを明らかにしてきた。

1) -2 支配的な親とアタッチメントの安定性を示さない子どもへの研究

また、臨床的な問題として、アタッチメントパターンについての基礎研究の結果とは異なる、少数の反応に目を向け、その要因を明らかにすることは重要な臨床の研究課題である。Frodi et al. (1985) らの研究では、基礎研究で示されてきたように、アタッチメントの分類が生後 12 ヶ月と 20 ヶ月でほぼ安定していることを明らかにした上で、アタッチメントの質が変化している少数の例について言及している。生後 12 ヶ月時には安定したアタッチメントを示したが、20 ヶ月時には不安定なアタッチメントを示す群が少数ながら存在した。その要因としてもっと詳細な養育態度や、子どもとのやりとりが 20 カ月という自律性の出てきた幼児の行動にどう関わるかによって、愛着の分類が変化していることを示している。アタッチメントパターンを決定づける要因として、母子関係のどこの部分が影響するのかという詳細な検討を行っている。

1) -3 母子関係の評価の方法と SSP との関連

アタッチメントに個人差があることが明らかになったことから、親子関係のアセスメントの一部として利用されたり、小児科における心理的機能不全のスクリーニングなどその他の指標との関連をみている研究がある (例えば Harper et al., 1982; Crnic et al., 1985)。

臨床的な問題は親子間の関係の中で捉えられるため、関係性の一つであるアタッチメントの質の

変化は実証的な証拠になりうると考えられ、親子間の評定に重要な意味を持っている。例えば、Booth et al. (1987) による教育水準の低い母親や、慢性の病気を持つ母親など様々なリスクを抱えた母親の共通の介入を検討した研究では、母親への認知や外的能力への介入のあとで母子関係への介入を行う 2 段階モデルのプログラムの効果を確かめる指標の一つとして使用された。第 1 段階を踏んだ後の第 2 段階でアタッチメントの質が変化していることを明らかにし、親子関係の質が変化するためには母親の認知や外的能力への介入が必要であることを見出している。

2) 世代間伝達のみカニズムに迫った時期: 1989 年~1990 年代前半

1989 年から 1990 年代前半のアタッチメントに関する研究は 223 本中 34 本 (15.25%) だった。このうち、アタッチメント研究の内容の各分類が占める割合は、「アタッチメントの形成要因の検討」が 44.12%、「内的作業モデル:IWM」が 35.29%、「アタッチメント行動」と「アタッチメントの予後」が 5.88%、「その他」が 8.82%であった。このことから、前年代よりも、内的作業モデルに関する研究の割合が増えており、注目されていることが分かる。また、臨床的問題の各分類が占める割合は「親の問題」が 79.41%、「子どもの発達におけるリスク」と「親以外の問題」が 8.82%、「トラウマ体験」が 2.94%であった。親の問題の割合が大きくなっている理由は、親の内的表象に注目が集まっているからであろう。

1989 年に Main et al. (1989) が、乳児の母親自身のアタッチメントの質に注目し、大人のアタッチメントの表象の特徴を測る、AAI を開発した。大人のアタッチメントの質を測ることが可能になり、アタッチメントの生涯にわたる臨床分野での応用が進んできたと考えられる。

Bretherton et al. (1989) は、AAI の臨床にお

ける価値を説明している。それは、不安定なアタッチメントを持つ親との交流パターンを繰り返していることで、親の子どもへの無神経な行動が適切なモデルを構築するのを妨害しているという、不安定なアタッチメントの世代間伝達のメカニズムを説明するために用いられることである。そもそも、虐待された子どもが虐待する親になるという見方が1970年代後半より信じられてきた(遠藤, 2005)。AAI が考案され、実証的な研究が進む中、臨床的関心は虐待や不安定なアタッチメントの世代間伝達を説明することであったと言える。

2) -1 親の不安定なアタッチメントパターンと子どもの臨床的な問題

この時期、子どもの臨床的な問題と親のアタッチメントパターンの関連に着目している。Crowell & Feldman (1989) の研究では遊びの中のやりとりや子どもの気持ちの代弁に母親の内的作業モデルが表れていることが明らかになり、母親の不安定なアタッチメントが子どもの問題行動につながるリスク要因となりうるが見出されている。

また Benoit et al. (1989) らの研究では、発育不全の乳児の母親と対照群の発育不全ではない乳児と母親のアタッチメントの型を AAI で測定、比較した。発育不全の親のほとんどが不安定なアタッチメントを示すことが明らかになり、発育不全は関係性の障害であるという経験的な知を補強する結果となっている。

また、母親のアタッチメントパターンに表れる内的表象に関して、妊娠期からの研究がある (Stern, 1991 ; Field, 1992 ; Lebovici, 1993)。Stern (1991) の研究によると、内的表象は妊娠中の母親の表象が、乳児が1才になった時点における乳児のアタッチメントパターンに影響を与えることが明らかになった。そして Lebovici (1993) は妊娠の願望とともに生まれる「想像上の赤ん坊 (imaginary baby)」と親であることの願望から

生まれる「幻想の中の赤ん坊 (fantasmatic baby)」という2つの表象を提案している。

2) -2 不安定なアタッチメントパターンを持つ親の養育態度

そして適応的でない養育を受け続けることの影響を明らかにするために、不安定なアタッチメントパターンをもつ親の子どもへの関わり方にも関心が向いている。

Haft & Slade (1989) らは、母親が乳児の体験を理解することを妨げる要因を明らかにする目的で、親のアタッチメントパターンと情動調律の特徴に着目している。安定したアタッチメントを持つ母親は、乳児の情動に幅広く調律し、不安定な母親は特定の情動にしか調律できず、母親の中に内在化された情動体験の性質が、母親が子どもの中に調律する情動に強い影響を持つことを明らかにした。母子のアタッチメントパターンの一致を検討するだけでなく、母親の関わり方のどの部分が子どものアタッチメントの質に影響するのかを詳細に検討している。

3) 反応性アタッチメント障害の研究の登場：1990年代後半～2000年代前半

1990年代後半から2000年代前半のアタッチメントに関する研究は223本中74本(33.18%)だった。このうち、アタッチメント研究の事柄の各分類が占める割合は「アタッチメントの形成要因の検討」が55.41%、「内的作業モデル：IWM」が18.92%、「アタッチメントの予後」が14.86%、「アタッチメント行動」が9.46%、「その他」が1.35%であった。他の時期に比べて、アタッチメントが子どもの発達をどのように予測するのかを検討した研究が多いことがわかる。

また、臨床的問題の各分類が占める割合は「親の問題」が42.55%、「子どもの発達におけるリスク」が18.09%、「アタッチメント障害」が18.09%、「親以外の問題」が9.57%、「子どものトラウマ体

験」が7.45%であった。このことからアタッチメント障害に焦点が当てられていることがわかる。1990年代前半まで扱われてこなかった無秩序/無方向型パターンのアタッチメント (Main et al., 1986) が1990年代後半からIMHJでも取り上げられるようになった。実際に、1990年代後半から2000年前半の74本中14本がアタッチメント障害に関する論文であった。特に1999年には「無秩序/無方向型アタッチメント」の特集号が組まれている。この特集号は、それまで研究がほとんどされてこなかった反応性アタッチメント障害 (Reactive Attachment Disorder: RAD, 以下RAD) の臨床的利用価値のある枠組みを構築するという狙いがあったという (Boris & Zeanah, 1999)。主に、アタッチメント障害と①親のもつ養育行動のリスク要因、②子どものもつ発達のリスク要因、③子どもの早期のトラウマ体験との関連が検討されていた。

3) -1 親のもつ養育行動のリスク要因との関連

まず、低収入や家庭内暴力をなどの親の養育上のリスク要因との関連を検討した論文は7本あった (Sprangler et al., 1996; Mayselless, 1998; Zeanah et al., 1999; Heller & Zeanah, 1999; Benoit et al., 2001; Fish, 2001; Gauthier, 2003)。例えば、Fish (2001) は社会経済的に低い階層の家庭はそうでない家庭に比べ、D型のアタッチメントになりやすいこと。さらに、このような経済的に低い階層の家庭では社会的支援の高さが必ずしもアタッチメントの安定性の保護要因にならないと述べている。また、Gauthier (2003) は養育環境のリスクの高い環境は子どもの不適切なアタッチメントを形成し、その後の人格発達に影響するため、社会的政策や家庭訪問などの早期の親子のアタッチメント形成の介入が必要であることを示唆している。これらは、社会的地位が低く、文脈上のリスクが高い親の過程ではアタッチメントの形成が障害されやすいため支援が必要な

ものの、これまでの中流階級を対象とした親子のアタッチメント形成の促進に効果があった介入では、支援の効果が得にくいことを示している。

3) -2 子どものもつ発達のリスク要因との関連

次に、乳幼児精神保健に影響を与えうると考えられてきた子どもの発育不全や重大な病気などの子どもの器質的問題とD型やRADとの関連を検討した論文は5本あった (Coolbear & Benoit, 1999; Minde, 1999; Ward et al., 1993; Cox et al., 2000; Schore, 2001)。例えば、Coolbear et al. (1999) や Ward et al. (1993) は発育不全の子どもと母親のアタッチメントパターンについて検討を行っている。発育不全の子どもは正常児に比べて解体型を示すこと、さらに病因に関わらず障害のあるアタッチメントパターンが発育不全では起こりやすいことが示唆されていた。また、Cox et al. (2000) は低体重出生児で頭蓋内出血によるハイリスクを抱える乳児と母親のアタッチメントの予測因子を調査した。その結果、乳児の要因よりも母親の乳児表象がアタッチメント関係の安定性を予測することが示唆された。これらの結果は、子どものもつ乳幼児精神保健に対するリスク要因が子どもの親との関係性に影響を与える重要な要因であることのエビデンスを強めている。

3) -3 子どもの早期のトラウマ体験との関連

さらに、早期の母子分離を体験した施設児や養子縁組された子どもとの関連との関連を検討した論文は2本あげられる (O'Connor et al., 1999; Gauthier et al., 2004)。これらの論文は早期剥奪におけるトラウマ体験がアタッチメント障害を引き起こす要因となること、さらに、アタッチメント障害や情緒的障害を理由に里親の変更が繰り返されることで、アタッチメント障害のリスクを高めることを示唆している。アタッチメントの絆の度重なる断絶を防ぎ、子どもたちにとって永続的な養育者をつくるのが重要であることが主張されている。

4) 社会的養護におけるアタッチメント研究の増加：2000年代後半～現在まで

2000年代後半から2015年のアタッチメントに関する研究は223本中93本(41.70%)だった。このうち、アタッチメント研究の事柄の分類が占める割合は「アタッチメントの形成要因の検討」が64.52%、「内的作業モデル：IWM」が16.13%、「アタッチメントの予後」が9.68%、「アタッチメント行動」が7.53%、「その他」が2.15%であった。他の時期と同様にアタッチメントの形成要因の検討が多くあったが、アタッチメント形成を促進する介入研究が多いことが特徴であった。また、臨床的問題の各分類が占める割合は「親の問題」が49.57%、「アタッチメント障害」が18.26%、「子どもの発達におけるリスク」が14.78%、「親以外の問題」が13.91%、「子どものトラウマ体験」が3.48%であった。他の時期に比べ、親以外の里親や施設でのアタッチメントに関する研究が多いことがわかる。この時期は①養育行動にリスクを抱える母子へのアタッチメントを促進する介入研究、②母子以外のアタッチメント研究の増加という特徴が見られた。

4) -1 養育行動にリスクを抱える母子のアタッチメントを促進する介入研究

2000年代後半から2015年までの間、IMHJではアタッチメント理論を援用した早期母子関係への介入研究が発展したと考えられる。これらの介入研究はD型のアタッチメントパターンの親子の関係性に焦点をあてたものであった。例えば、養育行動におけるハイリスクを抱える母親と子どもの早期の家庭訪問プログラムが母親の乳児に対する感受性のある行動を増加させ (Ammaniti et al., 2006)、子どもの後の発達の行動問題を予防できることが示唆されている (Borghini et al., 2006)。また、薬物を使用している母親に対する介入のパイロット研究では、母親のリフレクティブ機能を強化し、養育についての母親の歪んだ心

的表象を和らげ、母子間のアタッチメント関係を改善させるプログラムが提案されていた (Suchman et al., 2011)。

4) -2 母子以外のアタッチメント研究の増加

また、里親や施設養護などの社会的養護でのアタッチメント研究が90本中15本あり、増加傾向にあるのも特徴である。IMHJでは1980年代から施設や里親家庭での乳幼児精神保健とアタッチメントについての研究を掲載し (Trout, 1980)、2002年に里親や親戚によって育てられる乳幼児の特集号が組まれるなど、社会的養護と乳幼児の発達について焦点をあてていた。しかし、特集号ではアタッチメント研究は含まれておらず、主な中心テーマは里親や親戚によって養育される子どもの発達上のリスクや里子との関係での介入ポイントや感受性のトレーニング方法についてであった。2000年後半になると、里親や施設職員の養育の質とアタッチメント関係についての検討 (Oosterman & Schuengel, 2008; Altenhofen et al., 2013)、多職種協働の支援モデルやアタッチメント理論を用いた早期介入についての研究が増加した (Wotherspoon et al., 2008; Bick & Dozier, 2013)。母子や父子など家族内だけでなく、里親や施設職員とのアタッチメント関係の援助に焦点があてられてきている。主たる養育者との関係の喪失などにより社会的養護に措置される乳幼児は、1人以上のアタッチメント人物との関わりを通して、アタッチメント関係を再構築していかなければならない (Hows, 1999)。代替養育でのアタッチメント関係の検討は、アタッチメント理論があたかも「ただ1人の養育者との絶対的關係の存在」のみを前提とするかのような社会的な思い込みについて、一石を投じるものとなりうると考えられる。

V 今後の課題

以上のように、臨床領域でのアタッチメント研究は①親子の臨床的問題と不安定なアタッチメントの関連を検討し、②世代間伝達のメカニズムの解明、③反応性アタッチメント障害の臨床的位置づけ、④社会的養護におけるアタッチメント形成の促進といった流れで発展してきたことがわかった。IMHJでは子どもの発育不全、親の精神障害や低収入などの養育上のハイリスクをもつ家庭を中心に研究が行われていた。D型が発見される前から、分類不能なアタッチメントの乳幼児の研究が行われていたが、③の反応性アタッチメント障害についての枠組みの構築は、アタッチメント理論が一般心理学と臨床心理学を橋渡しした、重要な分岐点であったといえよう。さらに、母子のアタッチメント研究や虐待児のアタッチメント障害の研究、近年の児童虐待や要保護児童の増加という社会的背景もあり、Bowlbyのモノトロピーが一人歩きし、「たった1人の養育者と子ども」の関係が重要視されるという誤解が生じていたが(庄司他, 2008)、母子中心のアタッチメント研究から里親や施設職員とのアタッチメント研究へ広がりを見せている。アタッチメント理論をもとにしたアタッチメント形成を促進する早期介入や実践モデルなど徐々に増加してきている。日本でも、アタッチメント理論に基づいた介入が数少ないが行われており(青木他, 2008)、アタッチメント理論や技法に基づく介入を根付かせることが求められている(遠藤, 2010)。現段階ではパイロット研究が多く、介入やフォローアップを含む縦断研究や知見の蓄積には至っていない。介入の効果研究の蓄積と実践モデルの確立が今後の課題であるといえよう。

<付記>本研究の一部は、平成27年度日本学術振興会科学研究費挑戦的萌芽研究 課題番号 15K13137 (代表: 青木紀久代) の助成を受けた。

<注>

1) WAIMH は the World Association for Infant Psychiatry として 1980 年に誕生した。その後、1985 年に the World Association for Infant Psychiatry and Allied Disciplines (WAIPAD) として生まれ変わり、1992 年に the International Association for Infant Mental Health (IAIMH) と合体して現在の the World Association for Infant Mental Health (WAIMH) となった。また、日本支部の乳幼児精神保健学会は 1996 年に設立された。

文献

- Ainsworth, M., Blehar, M., Waters, E., & Wall, S. (1978). *Patterns of Attachment: A psychological study of the strange situation*. Hillsdale NJ: Erlbaum.
- Albus, K. E., & Dozier, M. (1999). Indiscriminate friendliness and terror of strangers in infancy: Contributions from the study of infants in foster care. *Infant Mental Health Journal*, *20*(1), 30-41.
- Altenhofen, S., Clyman, R., Little, C., Baker, M., & Biringen, Z. (2013). Attachment security in three-year-olds who entered substitute care in infancy. *Infant Mental Health Journal*, *34*(5), 435-445.
- Ammaniti, M., Speranza, A. M., Tambelli, R., Muscetta, S., Lucarelli, L., Vismara, L., Odorisio, F., & Cimino, S. (2006). A prevention and promotion intervention program in the field of mother-infant relationship. *Infant Mental Health Journal*, *27*(1), 70-90.
- 青木紀久代 (2008). 親-乳幼児心理療法における精神的発達理論と愛着理論——インターフェイスとしての間主観的観察—— 精神分析研究, *52*(1), 41-53.
- 青木豊(2008). アタッチメントの問題とアタッチメント障害 子どもの虐待とネグレクト, *10*(3), 285-296.
- Benoit, D., Madigan, S., Lecce, S., Shea, B. & Goldberg, S., (2001). Atypical maternal behavior toward feeding-disordered infants before and after intervention. *Infant Mental Health Journal*, *22*(6), 611-626.
- Benoit, D., Zeanah, C. H., & Barton, M. L. (1989). Maternal attachment disturbances in failure to thrive. *Infant Mental Health Journal*, *10*(3), 185-202.
- Bick, J., & Dozier, M. (2013). The effectiveness of an attachment-based intervention in Promoting foster Mothers' sensitivity toward foster Infants.

- Infant Mental Health Journal*, **34**(2), 95-103.
- Booth, C. L., Barnard, K. E., Mitchell, & Spieker, S. J. (1987). Successful intervention with multi-problem mothers: Effects on the mother-infant relationship. *Infant Mental Health Journal*, **8**(3), 288-306.
- Borghini, A., Pierrehumbert, B., Miljkovitch, R., Muller-Nix, C., Forcada-Guex, M., & Ansermet, F. (2006). Mother's attachment representations of their premature infant at 6 and 18 months after birth. *Infant Mental Health Journal*, **27**(5), 494-508.
- Boris, N. W., & Zeanah, C. H. (1999). Disturbances and disorders of attachment in infancy: An overview. *Infant Mental Health Journal*, **20**(1), 1-9.
- Bowlby, J. (1951). *Mental Care And Mental Health*. World Health Organization. (ボウルビイ, J. 黒田実郎(訳) (1967). 乳幼児の精神衛生 岩崎学術出版)
- Bowlby, J. (1969). *Attachment and loss: Vol.1, Attachment*. London: The Hogarth Press. (ボウルビイ, J. 黒田実郎・大羽葵・岡田洋子・黒田聖一(訳) (1976). 母子関係の理論 岩崎学術出版社)
- Bowlby, J. (1973). *Attachment and loss: Vol.2, Separation*. London: The Hogarth Press. (ボウルビイ, J. 黒田実郎・岡田洋子・吉田恒子(訳) (1995). 母子関係の理論 岩崎学術出版社)
- Bowlby, J. (1980). *Attachment and loss: Vol.3, Loss*. London: The Hogarth Press. (ボウルビイ, J. 黒田実郎・横浜恵三子・吉田恒子(訳) (1991). 母子関係の理論 岩崎学術出版社)
- Bretherton, I., Biringen, Z., Ridgeway, D., Maslin, C., & Sherman, M. (1989). Attachment: The parental perspective. *Infant Mental Health Journal*, **10**(3), 203-221.
- Coolbear, J., & Benoit, D. (1999). Failure to thrive: Risk for clinical disturbance of attachment? *Infant Mental Health Journal*, **20**(1), 81-104.
- Cox, S. M., Hopkins, J., & Hans, S. L. (2000). Attachment in preterm infants and their mothers: Neonatal risk status and maternal representations. *Infant Mental Health Journal*, **21**(6), 464-480.
- Crnicek, K. A., Greenberg, M. T., & Slough, N. M. (1986). Early stress and social support influences on mothers' and high-risk infants' functioning in late infancy. *Infant Mental Health Journal*, **7**(1), 19-33.
- Crowell, J. A., & Feldman, S. (1989). Shirley Assessment of mothers' working models of relationships: Some clinical implications. *Infant Mental Health Journal*, **10**(3), 173-184
- 遠藤利彦 (1993). 内的作業モデルと愛着パターンの世代間伝達 東京大学教育学部紀要, **32**, 203-220.
- 遠藤俊彦 (2010). アタッチメント理論の現在——生涯発達と臨床実践の視座からその行方を占う—— 教育心理学年報, **49**, 150-161.
- Drotar, D., & Sturm, L. (1987). Paternal influences in non-organic failure to thrive: Implications for psychosocial management. *Infant Mental Health Journal*, **8**(1), 37-50.
- Field, T. (1992). Interventions in early infancy. *Infant Mental Health Journal*, **13**(4), 276-287.
- Fish, M. (2001). Attachment in low-SES rural Appalachian infants: Contextual, infant, and maternal interaction risk and protective factors. *Infant Mental Health Journal*, **22**(6), 641-664.
- Frodi, A. (1983). Attachment behavior and sociability with strangers in premature and fullterm infants. *Infant Mental Health Journal*, **4**(1), 13-22.
- Frodi, A., Grolnick, W., & Bridges, L. (1985). Maternal correlates of stability and change in infant-mother attachment. *Infant Mental Health Journal*, **6**(2), 60-67.
- Gauthier, Y. (2003). Infant mental health as we enter the third millennium: Can we prevent aggression? *Infant Mental Health Journal*, **24**(3), 296-308.
- Gauthier, Y., Fortin, G., & Jéliu, G. (2004). Clinical application of attachment theory in permanency planning for children in foster care: The importance of continuity of care. *Infant Mental Health Journal*, **25**(4), 379-396.
- Haft, W. L., & Slade, A. (1989). Affect Attunement and Maternal Attachment: A Pilot Study. *Infant Mental Health Journal*, **10**(3), 157-172.
- Harper, J., Smith, P., Dickey, D., & Broussard, R. (1982). Screening and assessment of psychosocial dysfunction in a private pediatric practice. *Infant Mental Health Journal*, **3**(3), 199-208.
- Hesse, E. (1996). Discourse, memory, and the adult attachment interview: A note with emphasis on the emerging cannot classify category. *Infant Mental Health Journal*, **17**(1), 4-11.
- Heller, S. S., & Zeanah, C. H. (1999). Attachment disturbances in infants born subsequent to perinatal loss: A pilot study. *Infant Mental Health Journal*, **20**(2), 188-199.
- Hinshaw-Fuselier, S., Boris, N. W., & Zeanah, C. H. (1999). Reactive attachment disorder in maltreated twins. *Infant Mental Health Journal*, **20**(1), 42-59.
- 数井みゆき・遠藤利彦・田中亜希子・坂上裕子・菅沼真樹 (2000). 日本人母子における愛着の世代間伝達 教育心理学研究, **48**(3), 323-332.
- 数井みゆき・遠藤利彦 (2007). アタッチメントと臨床領域 ミネルヴァ書房
- 近藤清美 (1993). アタッチメント研究の動向と Q 分類

- 法によるアタッチメントの測定 発達心理学会, **4**, 108-116.
- Lamb, M. E. (1980). The father's role in the facilitation of infant mental health. *Infant Mental Health Journal*, **1**(3), 161-167.
- Lebovici, S. (1993). On intergenerational transmission: From filiation to affiliation. *Infant Mental Health Journal*, **14**(4), 307-315.
- Main, M., Kaplan, N., & Cassidy, J. (1985). Security in infancy, childhood, and adulthood: A move to the level of representation. *Monographs of the Society for Research in Child Development*, **50**(1-2), 66-104.
- Main, M., & Solomon, J. (1986). Discovery of a new, insecure-disorganized/disoriented attachment pattern. In Brazelton, T. B., & Yogman, M. W. (Eds.), *Affective development in infancy*. Norwood, NJ: Ablex.
- 増沢高・青木紀久代 (2012). 社会的養護における心理臨床: 多職種協働による支援と心理職の役割 福村出版
- Mayseless, O. (1998). Maternal caregiving strategy: a distinction between the ambivalent and the disorganized profile. *Infant Mental Health Journal*, **19**(1), 20-33.
- Minde, K. (1999). Mediating attachment patterns during a serious medical illness. *Infant Mental Health Journal*, **20**(1), 105-122.
- O'Connor, T. G., Bredenkamp, D., & Rutter, M. (1999). Attachment disturbances and disorders in children exposed to early severe deprivation. *Infant Mental Health Journal*, **20**(1), 10-29.
- Oosterman, M., & Schuengel, C. (2008). Attachment in foster children associated with caregivers' sensitivity and behavioral problems. *Infant Mental Health Journal*, **29**(6), 609-623.
- Rieser-Danner, L. A., Roggman, L., & Langlois, J. (1987). Infant attractiveness and perceived temperament in the prediction of attachment classifications. *Infant Mental Health Journal*, **8**(2), 144-155.
- Schore, A. N. (2001). Effects of a secure attachment relationship on right brain development, affect regulation, and infant mental health. *Infant Mental Health Journal*, **22**(1-2), 7-66.
- 庄司順一・奥山真紀子・久保田まり (2008). アタッチメント 子ども虐待・トラウマ・対象喪失・社会的養護をめぐる 明石書店
- Solyom, A. E. (1982). Affect development and its assessment in infancy. *Infant Mental Health Journal*, **3**(4), 276-292.
- Sprangler, G., Fremmer-Bombik, E., & Grossmann, K. (1996). Social and individual determinants of infant attachment security and disorganization. *Infant Mental Health Journal*, **17**(2), 127-139.
- Stern, D. N. (1991). Maternal representations: A clinical and subjective phenomenological view. *Infant Mental Health Journal*, **12**(3), 174-186.
- Suchman, N. E., Decoste, C., Memahon, T. J., Rounsaville, B., & Mayes, L. (2011). The mothers and toddlers program, an attachment-based parenting intervention for substance-using women: Results at 6-week follow-up in a randomized clinical pilot. *Infant Mental Health Journal*, **32**(4), 427-449.
- Trout, M. D. (1980). Infant mental health: A brief review of a gigantic work. *Infant Mental Health Journal*, **1**(1), 4-8.
- Ward, M. J., Kessler, D. B., & Altman, S. C. (1993). Infant-mother attachment in children with failure to thrive. *Infant Mental Health Journal*, **14**(3), 208-220.
- Wotherspoon, E., O'Neill-Laberge, M., & Pirie, J. (2008). Meeting the emotional needs of infants and toddlers in foster care: The collaborative mental health care experience. *Infant Mental Health Journal*, **29**(4), 377-397.
- Zeanah, C. H., Danis, B., Hirshberg, L., Benoit, D., Miller, D., & Scott, H. S. (1999). Disorganized attachment associated with partner violence: A research note. *Infant Mental Health Journal*, **20**(1), 77-86.